

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 12月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200013
法人名	社会福祉法人タービュランス福祉会
事業所名	グループホーム乗附
所在地	高崎市乗附町1200-1 (電 話) 027-395-6085
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年12月16日

【情報提供票より】(平成20年 11月 21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人、非常勤 2人 常勤換算	7.2人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	49,500 円		その他の経費(月額)	光熱水費 300円/日・テレビ持込費用100円/日	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円	
	夕食	300 円	おやつ	50 円	
	又は、1日 900円				

(4)利用者の概要(11月 21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松岡病院・五百山クリニック・松岡皮膚科・おおた歯科医院 他
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高崎観音山麓の田畑が広がる静かな環境の住宅地に立地し、ホール窓から遠くの赤城山、子持山、榛名山が眺められる。ホールは吹き抜けになっており圧迫感がなく、天窗の採光で明るく、雰囲気が良い。入居者の方は毎日近隣を散歩したり、車で買い物に出かけたり、観音山の桜見物、ばらや紫陽花の花見等季節毎の屋外のレクリエーションを楽しんでいる。また、絵を描いたり、裏庭で野菜や草花を育てる等、職員と一緒に喜怒哀楽を共にしている。職員は、理念にあるように一人ひとりを尊重し、良い一日だったと思って頂ける「その方のQOL」を考えた支援に熱意を持って取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善項目に対し、①地域の子供の安全を考え「子どもを守る家」のステッカーを門に貼り、協力を申し出る。②入居者の生活スタイルを知る為の生活歴の書類を作成し、介護プランに反映をする。③同業者との交流を図れるように地域密着型サービス連絡協議会に加入計画がある等改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を理解し会議で職員に伝え、自己評価項目の一部を職員と共に取り組み、総合的に管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎開かれている。入居者の状況、行事運営、評価結果について報告し、地域からの情報をもらい、災害時の協力依頼をしている。出席者の意見に行政が説明されたり、ホームの行事に地域の方を招待するとよとの提案がある等、会議の意見をホームの運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口は入居時の説明書類に明記し、説明している。また意見箱も設置している。運営推進会議に出席をする家族から意見を出して頂いたり、運営推進会議の議事録を事務所に置いて何時でも閲覧出来るようにしている。また、家族等の訪問の際には声をかけ、意見や要望等を引き出し、会議で検討し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者は毎日の散歩時地域の方と挨拶を交わし、時には近隣の方が花や饅頭をホームに届けてくれる。踊りのグループの方も慰問に見えている。町内会に加入し、回覧板から情報を得て、地域行事の芸能祭、どんど焼き、敬老会等に招待され、職員は道路清掃に参加をし、地域住民との交流に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が運営する施設の共通理念に、「私達が過ごす時間の長さや重さが違う今日を、良い日が終わったと思って頂けるように、その人の立場になって想像力を働かせて支援します」と謳われている。ホームの理念は、管理者、全職員で検討を行い、現状の理念としている。	○	地域密着型サービスとして地域との関係性を重視し、地域密着型サービスの役割を旨とした内容となるよう、再度検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示され、管理者、職員は共有している。入居者の暮らしに合わせたこれまでの生活スタイルを尊重し、散歩をしたり、絵を描いたり、仏壇に供える花を買いに行ったり、その人らしい生活や趣味を楽しんで頂けるよう日々支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。芸能祭やどんど焼き、敬老会に参加したり、職員は道路清掃に参加している。散歩の折には地域の方と挨拶を交わし、時にはお花や饅頭を頂いたり、踊りの好きな方2～3人がホームに見えて踊ってくれる等地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、職員に伝え、会議の折に自己評価の一部を職員と一緒に評価し、話し合いをしてまとめている。前回評価の改善課題には、「子どもを守る家」とステッカーを門に張り出し、地域協力を申し出ている。これまでの生活スタイルを知る為の生活歴の書類を作成して介護プランに反映させている。ネットワーク作りの為、地域密着型サービス連絡協議会加入計画がある等取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議は開催されている。入居状況、行事運営、地域の状況、評価結果等を議題にして、家族から行政に質問する等意見交換が行なわれている。ホームの行事に地域の方を招待するとよいのではとの提案が出席者からあり、検討をすることになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告、介護調査や認定書類、アンケート等を直接市へ持参し、担当者と面談して情報を得ている。問題がある場合は相談をし、市と共にサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時に、健康状態や暮らしぶりを伝えている。来られない方には電話や手紙で外出時の写真を添えて近況を伝えている。金銭については、一定額を預かり、買い物をしたレシートを添えて、出納帳を見て頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明書類に、苦情相談窓口にホームの管理者、外部の公的機関を明記して、また、法人本部のホピ園等があることを説明し、意見箱を設置している。職員は家族等の面会時には声をかけ意見を聞く等に努め、出された意見は会議で検討し運営に反映をさせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動等があると申し送りを詳細に行なっている。入居者が新人職員と馴染むまで、職員が新人職員の介護時フォローを行い、入居者が不安感を持たないようにして、ダメージを防ぐ配慮をする。また異動した職員は、時折ホームを訪れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の新人研修、認知症について、管理者研修等を職員は段階に応じて受講している。法人内では感染予防、介護事故予防、接遇等委員会があり、それぞれの会で勉強会が行なわれ、管理者がスーパーバイザーとなり職員は働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、市主催の研修会や地域包括支援センターでの研修会等で情報交換をしている。また、地域密着型サービス連絡協議会に加入していないが、法人内のグループホームと交流をしている。	○	管理者、職員は、地域の同業者との交流を図る機会を持ち、職員の他ホームとの交換研修等の活動を通じて、サービスの質の向上を期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望がある家庭を訪問し、本人や家族の希望を聞き情報を得ている。また、本人と家族にホームを見学して頂き、雰囲気を知ってもらっている。職員はこれらの情報から入居の準備を進め、入居時不安にさせないように家族の頻繁の来訪依頼等馴染めるように配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、職員と一緒に野菜を刻み、味付け等をして食事の準備をしたり、昔の数え歌や民謡を歌い、日本の文化や歴史等を話してくれる。また、職員の顔色を見て健康を気遣う言葉かけをしてくれる入居者もいる。入居者と職員は、喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から生活歴や希望等を聞き、介護プランに活かしている。また、日々の関わりを通じて本人が一人で居る時等に言葉をかけ、思いを把握するように努めている。月2回のケア会議で入居者の思いや意向について話し合いがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望、要望を聞き、職員からの情報を得て、往診時には医師と相談を行い、月に2回のケア会議で検討され、ケアマネージャーがまとめ、介護プランを6ヶ月毎に作成している。介護プランのコピーを家族に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、介護認定の更新時に定期的に見直しをしている。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、入居者の心身の状態の変化や希望や要望等により随時見直しをし、家族には電話で伝えて了承を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診に同行したり、墓参りや自宅の花を見に行ったり、法人内の他施設の大正琴の演奏等の催しがある時には参加する等柔軟に対応している。また、近隣の理容師がホームに見えて髪をカットしてくれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を受診の方、希望により協力病院の医師がかかりつけ医の受診の方がいる。協力病院の医師による往診が月に1～2回あり、他の入居者の健康問題についても相談をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームで対応できる最大のケアについて説明、話し合いをしている。重度化した場合は、かかりつけ医、家族と相談しての対応となるが、終末期ケアの対象者はいなかったため、かかりつけ医と話し合いはしていない。家族からの強い希望があるならば検討をして行きたいと考えている。	○	重度化した場合の方針の共有は図られているが、現在までに終末期ケアの対象となる方がいないために、ホームの職員とかかりつけ医は終末期ケアについて話し合いはしていないので、今後取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの自尊心を傷つけないような言葉かけや対応に配慮し、職員には入職時に個人情報の保護を説明し誓約書をとっている。個人の記録類は事務所に保管をし、取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や生活歴からその方の生活スタイルを把握し、散歩や買い物に出かける等の入居者の希望を制止することなく支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの力を活かしながら野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、おしぼり配り、後片付け等を職員と一緒にいき、談笑しながら職員と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日は決めているが、希望により何時でも入浴は可能である。入浴を拒否される入居者は現在はいないが、体調によって入浴が出来ない入居者には清拭や足浴で清潔を保持している。季節の菖蒲湯、柚子湯や入浴剤等で入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	床のモップかけ、洗面所の清掃、洗濯物たたみ、おしぼり作り、裏庭での野菜作り、草花の手入れ等を職員と一緒にしている。また、クレヨン画を描いたり、折り紙や花の創作をしたり、計算ドリルや漢字ドリル、歌を歌う等をしたり、観音山の桜や高崎の花火大会等を楽しめるよう支援している。一人ひとりの力を活かした役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの近隣を散歩したり、買い物には車で店まで出かけたり、ホームのごみだしをしながら入居者と一緒にドライブをしている。毎月の行事には、外食、季節によって寒桜を眺めたり、みかん狩りをしたり、富岡博物館や群馬の森の展覧会に行ったり、観音山等に出かける等野外でのレクリエーションを多く取り入れたケアをしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、夜間を除き施錠はしていない。入居者は裏側の入り口から、裏庭に出かけ野菜や草花の手入れをしたり、自由に出入りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の火災防火訓練を実施している。計画書を消防署に提出し、夜間を想定しての訓練を入居者と共に行なっている。地域の班長や民生委員には災害時の協力を依頼してあるが、近隣の方には依頼していない状況である。本部で一括して備蓄している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が、入居者の好みを考慮して献立を作成をしている。食事量や水分摂取量はチェックされその情報を共有し、水分が不足するとこまめに声をかけ摂取するよう努めている。糖尿病の方には、食事療法が適切に行なわれて薬物療法が無くなる等の結果が出るなどのひとり一人に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く、腰かけて履物がはけるように長椅子が置かれている。ホールは床暖房になっており、吹き抜けの天井には窓があり、ホールは明るい。ホール隅には、4、5畳のスペースになっておりテレビ鑑賞をしたり、廊下にはソファが置かれ、居心地良く過ごせる空間となっている。ホール脇のキッチンからご飯の炊ける匂いやクリスマスツリーが飾られ、五感や季節感を取り入れた暮らしの場を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真、入居者自身の創作の花が飾られ、時計、テレビ、ベット、木製の箆笥、椅子、趣味の本等が持ち込まれ、入居者が居心地良く過ごせる工夫をしている。		